

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
- 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
- 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、1次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	二つ台みーとみーとPJ
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	保土ヶ谷区釜台町
提案名 (25字以内)	シェアキッチンを備えた多世代交流拠点の整備
助成金申請予定額	500万円
整備する施設 (具体的な整備内容※ ¹ を工夫した点※ ² にも触れて記入してください) ※ ¹ 施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※ ² 住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	<p>横浜国立大学のすぐそばにあった精肉店を改修し、シェアキッチンを備えた多世代交流拠点と学習塾（まち普請整備対象外）を併設した地域拠点を整備する。学習塾は、①机とイスさえあれば運営できる。②子どもたちが学校に通う昼間は空間を持って余している。ということに着目し、学習塾×交流滞在空間×シェアキッチンで構成される交流拠点を整備し、地域へ開放する。当該建物は、バス通りの旧商店街に位置し、広い間口を持つ建物であり、地域に開けた建物である。その場所で地域の住民や団体がさまざまな活動を行えるシェアキッチンを備えた交流施設を整備する。</p> <p>■業務用キッチンの新設：飲食店営業許可・菓子製造業許可が取得できる業務用キッチンを整備し、食に関して調理・販売ができるような場とする。飲食店にチャレンジしてみたい地域住民や、(食に限らず)地域に開けたイベントを行いたい地域団体などに貸し出す。近接の公共施設（地域ケアプラザ・コミュニティハウスなど）では難しい販売等の営利活動も行える場とする。</p> <p>【その他の主な整備内容】床工事／電気・給排水・空調設備工事／内装工事／トイレ・建具工事／断熱工事など</p>
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください) ※第1次提案書より具体的に記入してください	<p>①チャレンジ・挑戦の機会の提供 ②地域のハブとして交流の場の提供 ③学びの場の提供を軸に、地域住民・地域団体がさまざまな活動を地域に開いていく場となることを目指し活動する。</p> <p>①チャレンジ・挑戦の機会の提供：料理やお菓子作りなどが好きでいつかお店を持ちたい人が試しにお店を開いてみるチャレンジの場の提供。日替わりで色々な店が展開し、地域に彩りが生まれる。</p> <p>②地域のハブとして交流の場の提供：間口が広く、地域の人が訪れやすい場所であるため、地域団体がさまざまな活動を地域に開いていく場として地域団体や地域住民に貸し出す。また、世代の違う団体等がコラボしてイベントを開ける場や販売活動などを行える場とする。また、貸出活動だけでなく様々な団体・住民が交わるきっかけとなるようなイベントをみーとみーと主催で行う。</p> <p>③学びの場の提供：お茶の教室や料理教室・病院とコラボした医療系のイベントなどが学びの活動が行える場の提供を行う。またチャレンジ・挑戦そのものが学びとなるため、①と関連して機会提供を行う。</p>

<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください) ※第1次提案書から変更した点がある場合はその理由も記入してください</p>	<p>横浜国大に近接したこの地域に学習塾を開設するにあたり、学習塾以外の時間は地域のために開放できないかと考えた。当該建物は、周辺住民や横浜国大の西門を利用する学生なら知らない人はいない地域のシンボリックな精肉店(ご主人の急逝により閉店)でありどのように利用されるかには高い期待が集まっている建物である。主な地域の課題としては大きく2点挙げられる。</p> <p>①商店の急激な減少：ここ数年で店主の高齢化により商店が一気に閉店してしまい、人通りが多いのにも関わらずシャッターが閉まった建物が目立つ寂しいまちとなってしまった。また、高台に位置するため急峻な坂道を上り下りしないと商店・飲食店などにアクセスできない地域となっている。ふらっと立ち寄れる場所や腰を下ろす場所がなく、また地域の居場所となるような場所がいため、そのようなニーズが高まっている。</p> <p>②異世代交流の希薄：釜台・常盤台地区は、高齢者は高齢者同士、子育て世代は子育て世代同士など同世代の関係を強化する取り組みは高頻度で開催されている。しかし、年齢問わず交流できる機会が少なく、縦の繋がりが薄い。また、横浜国大があるため多くの大学生が地域に住んでいるが、大学生の活動が地域に出ていく機会が少なく、大学がある地域としてのポテンシャルを活かしきれていない。それら異なる世代が繋がれるきっかけとなるものが何か一つでもあれば、様々な世代が交わり合う地域になれる潜在性を秘めているため、そのようなきっかけが作れないかと考えている。</p>
<p>整備プロセス (スケジュール、つくるときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)、費用削減の工夫に触れて説明してください)</p>	<p>2025年4月ごろ学習塾部分(まち普請整備対象外)オープン、2025年7~8月ごろキッチン部分オープン予定。横浜国大出身の若手建築ユニット8000000studioに設計デザイン、および工事監理を依頼。同ユニットのメンバーはセルフビルドに関する論文を書いており、工事は可能な限りセルフビルドとし工事費用削減を行う。セルフビルドの際の人的資源として、地域住民の参加と、横浜国大建築学科の学生への実践の学びの機会として参加を募ることを予定。みーとみーと学生メンバーに建築学生が多いため、通常のDIY以上にセルフビルドが行えると想定している。また耐震改修工事の費用調達のためのクラウドファンディング(2024年11~12月実施)の返礼品にてDIY参加券を設け、広報活動も兼ねて参加者を募る。また地域に向けたイベントを引き続き行い、運営体制の構築と仲間集めを進め実際のイベント運営を通して運営チームの体制を整えていく。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法 (維持管理・運営するときに連携する仲間の役割や活用する地域資源注4)に触れて説明してください)</p>	<p>運営体制：地域メンバーと学生メンバーで構成される。キッチンの貸出の管理については、地域メンバーで行う。地域メンバーに常盤台地区でキッチンカーのカフェを運営しているメンバーがいるため、開設初期はカフェとしてなるべく場所を開き、みーとみーとが開いている状態を維持し、シェアキッチンの貸出利用が増えれば徐々に移行していく計画。学生メンバーに関しては、横浜国立大学の地域課題実習(単位取得ができる授業制度)に組み込み、毎年メンバーを募集する。学生メンバーには地域の課題を解決するような取り組みをみーとみーとで行なってもらい、学びの機会とする。大学に近接した場所であるため学生の機動力が地域資源であると考え。地域メンバーと学生メンバー協働で、地域の課題解決や交流を促進するようなイベントをみーとみーと主催で行なっていく。単発のイベントだけでなく、月1や週1など定期的に開催できるイベントが行えるようになることも一つの目標としていく。</p> <p>運営費・運営計画：シェアキッチン・シェアスペースの貸出料金により運営費を賄う。また、人が集まりやすい立地を生かして、棚貸しや野菜の委託販売、弁当販売などを行い運営費に充てがう。家賃は学習塾と負担し合うことで月々の固定費の軽減を図る。また、初年度において2階の住宅部分はシェアハウスとして学生に貸し出すことでスタート時の家賃の軽減を図る。学習塾・シェアキッチンの利用頻度が向上した際には2階部分を学習塾に移行し、シェアキッチン専用部の拡充に対応する。詳しい運営計画はその他資料に記載。</p>

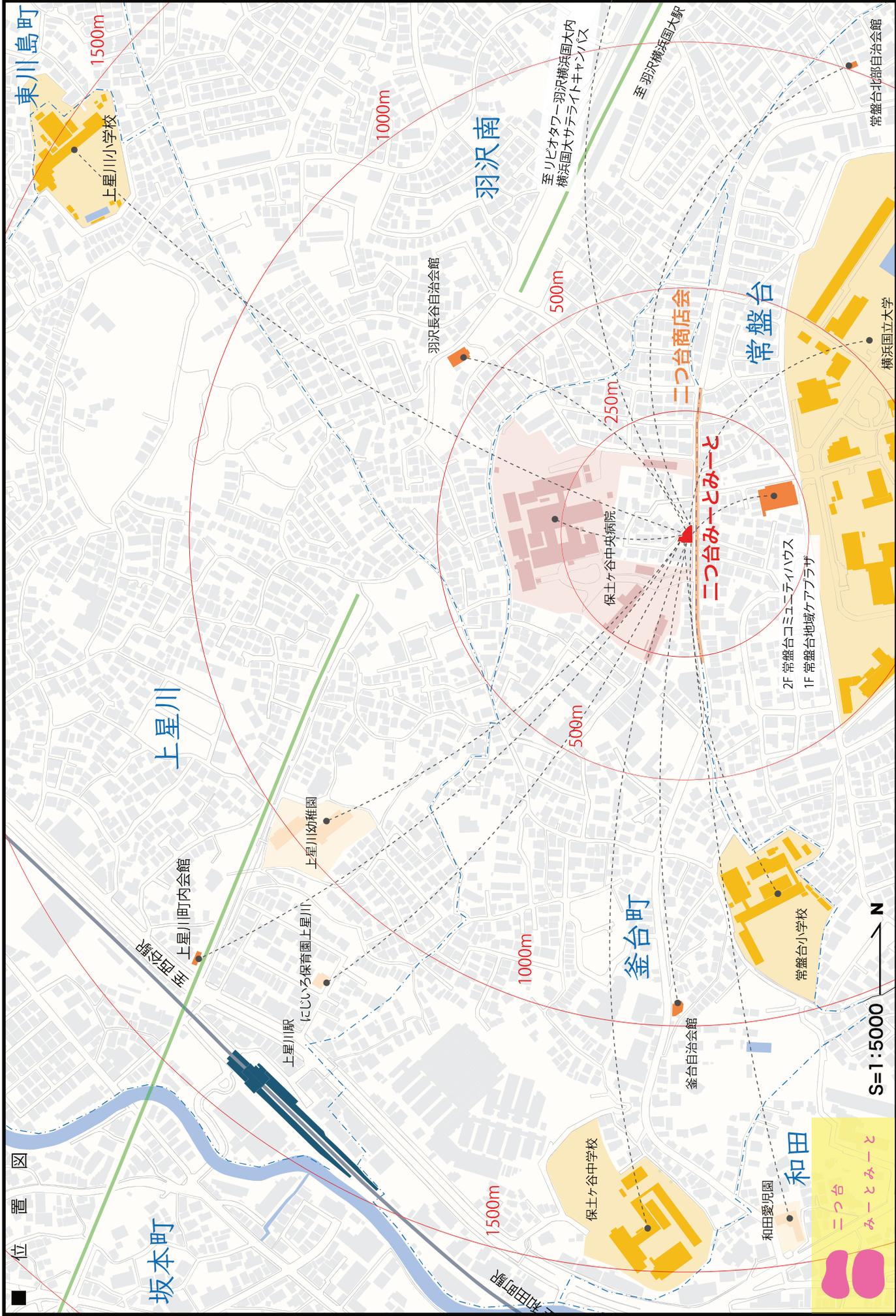
注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|-------------------------|-----------------------|
| ○「ヒト」の例 | ・地域のPTAから協力を受けられそう。 | ・地域に設計の専門家がいます。 |
| ○「モノ」の例 | ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 | ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | ・バザーなどで資金を集められそう。 |

<p>1次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<p>当該建物にてイベントの開催：幅広い住民の意見を取り入れるため、またシェアキッチン需要を測るため、周知活動も兼ねて当該建物で様々なイベントを開催した。建物が改修前で薄暗いことを逆手に取り、映画上映イベントを行った。他にも横浜国立大学のボードゲームサークルとコラボし、ボドゲカフェを地域住民に向けて開催、また農業系の学生団体とコラボし、地域の畑から収穫したサツマイモを利用した焼き芋カフェを開催するなど、横浜国立大学の活動を地域に開いていくということが実現できた。</p> <p>団体の構築：これらイベントの企画・運営を実際に行う学生を募集し、実際の企画を通じて学生団体としてのまとまりの構築を行うことができた。また、これらのイベントを通じて活動に興味のある地域住民（主婦から高校生まで）が仲間に加わった。</p> <p>需要の確認：シェアキッチンができることが周知されたことで実際に使ってみたいという声を直接いただきシェアキッチン需要があることが確認できた。</p> <p>近隣の病院・小学校との連携：イベントを通じて、上星川小学校の教員、保土ヶ谷中央病院の医師たちと繋がりができた。12月以降は保土ヶ谷中央病院と連携して、医療系のイベントの開催を企画している。上星川小学校とは、総合学習に取り入れ、子どもによる地域活動の実践の場として連携することを予定している。</p>
<p>関係者の合意・調整状況 （地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください）</p>	<p>建物所有者：耐震改修の工事費用を捻出できれば、建物は自由に使ってもらって構わないという意向を伺っている。イベント開催のために、無償での建物利用と電気・水道の開通をしていただき活動に対して非常に協力していただいている。/自治体（常盤台連合町内会・和田釜台連合町内会・羽沢横国まちづくり協議会）：若者が地域で頑張っているということで好意的に応援しているという声をいただいた。/住民説明会：11月に2度の住民説明会を行い、住民からの意見をいただいた。説明会時点では運営面でまだ脆弱な部分があり、運営の継続性に対して厳しい意見をいただいたが、ご指摘を踏まえ運営体制の構築を進めた。/近隣住民：地域を盛り上げるものを作るということで応援するが、公金で整備する以上しっかりとしたものを作ってほしいと意見をいただいた。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>①地域拠点 × 学習塾の両軸による運営：通常の学習塾に通う中学生・高校生や現役世代の保護者たちは一般的に福祉拠点や地域との関わりが希薄になる傾向がある。一体の施設として整備することによって地域拠点単体では実現できない交流が期待できる。また、まちづくりのための拠点団体と学習塾の両軸での運営形態とすることで経営面での負担を分散させ持続的に場の運営を行うことができる。②大学に近接している場：大学に近接しており、学生が積極的に参加するPJとなる。学生のフレッシュなアイデアや高いデザイン性を生かしたまちづくりができる。これにより学生と地域住民が協働するまちづくりのモデルケースを目指す。</p>
<p>目指す地域の将来像 （施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください）</p>	<p>みーとみーとが整備されることによって、地域住民や地域団体の「やってみよう！」や「やりたい！」が実現できる地域となることを期待している。自分のお店を開いてみたいなどの商売的な挑戦、子ども食堂や住民の居場所提供など社会的な貢献、自分たちの活動をより知ってもらうため地域へ開いた活動の実現など、ジャンルを問わず様々な「やりたい！」に挑戦できる場を地域に提供する。それによって自分たちの「やりたい！」を爆発できるようなエネルギーにあふれた地域となっていくと考えている。それら各人の挑戦の中で交流が生まれ、仲間作りや足りない部分の補い合い、助け合いなどが行われる地域となることを期待している。また、色々な団体がこの場所を利用することにより、例えば病院×小学校×みーとみーとで世代を超えた催し・イベントの開催など、今まで結び付かなかつた世代と結びつくことで新たな交流が生まれ、多世代がつながりのある地域となることを期待している。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



位置図は国土地理院が公開している地理院地図をもとに作成



完成予想図(外観パース)



完成予想図(内観パース)



ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 （費用又は労力の負担等）
解体工事	天井・裏新規開口部外壁	一式	132,000	132,000	地域住民・学生によるWS施工(3人工以上)
床工事（塾部分を除いた約40.3㎡分）	塾部分を除いた約40.3㎡分の床施工	一式	264,000	264,000	
木工事	柱撤去・梁補強	一式	418,000	418,000	
キッチンカウンター工事	調理機器・カウンター	一式	1,872,000	1,872,000	
造作工事	棚（約0.9㎡）・キッチン部床上げ（約7.0㎡）	一式	376,000	376,000	
建具工事	建具(前面約7.2mと背面約2.5m分)ドア(5か所)	一式	1,245,000	1,245,000	
内装工事	内壁下地・仕上げ（約50㎡）	一式	284,000	284,000	地域住民・学生によるWS施工(20人工以上)
トイレ工事	シート張替・機器設置	一式	286,000	286,000	
断熱工事	断熱材設置	一式	210,000	210,000	地域住民・学生によるWS施工(30人工以上)
水道工事	給排水管設置	一式	660,000	660,000	
電気工事	照明器具・スイッチ等設置	一式	308,000	308,000	
ガス工事	ガス管設置	一式	220,000	220,000	
設計料	上記費用×12%			753,000	
合計				7,028,000	

活動内容	日付	参加者	効果
対象建物でのイベント開催：場所の利用可能性の検討			
鍵を借りる	9/22	-	建物所有者から鍵を借り、建物でイベントを自由に行えるようになった。
みーとみーとシネマ (映画上映会)	10/19	20	初めてのイベント開催。沢山の通行人が足を止め、中を覗いてくれた。多くの 高齢者 が来場し、おしゃべりを楽しんでいた。
ボードゲカフェ	10/26	30	横浜国大内のボードゲームサークルとの コラボイベント 。多くの 小学生 で賑わい、大学の活動を地域に広げる場所として使われた。
みーとみーとクラフト (イスづくり)	11/10	30	メンバーの 特技 と建物の 土間空間 を活かし、工作体験のイベントを開催。 親子 での参加が多く、保護者の方にはみーとみーとの説明もできた。
おいもカフェ	11/17	100	横浜国大内の学生団体が栽培したサツマイモを焼いて販売。 「食」 をテーマにしたこのイベントには地域の 様々な世代 が集まった。
みーとみーとカフェ <small>資料提出時未実施</small>	12/13 ~14	-	メンバー(niki coffee)が運営するカフェをみーとみーとで出店。 大学生 や 教職員 にも積極的に広報。地域での 飲食店ニーズ を把握する。
…その他多数	-	-	みーとみーとの 様々な使われ方 を発見できた。 参加者から様々な ニーズ を聞いた。 「集まれる場所」 としてのイメージが住民に浸透し始めた。



ボードゲカフェ



みーとみーとクラフト



おいもカフェ

運営体制の構築：実現性の向上

メンバーの増加	8月~	イベントなどをきっかけに声をかけてくれる住民や学生が増加。新規メンバーは高校生から主婦まで。 10~70代 の各世代が揃った。
PJ内チームの再編	10月~	PJ運営・広報・イベント・学生・クラファン に分け、チームを再編。各活動を効率的に進められるように体制を整え始めた。
運営会議の定期開催	10月~	運営の実現性を高めると共に、PJの 方向性 を定め、 意思統一 をした。

広報活動の拡大：地域での認知度上昇

SNSでの発信	9月~	積極的に活動状況を発信。認知度上昇と共に多くの 新メンバー の窓口となった。
ポスターの掲示	10月~	シャッターに貼ることで大池道路を通る 多くの地域住民 に認知されるようになった。
地域メディアで発信	10月~	タウンニュースとYCVに取り上げていただき、 地域からの反響 を得た。
住民説明会の開催	11月	運営面での実現性に関する質問や、提案への 期待の声 をいただいた。

二つ台みーとみーとPJ 秋のイベント情報

イベント日時	
10月19日(土)	映画上映会
10月26日(土)	ボードゲカフェ
11月10日(日)	イスを作ってみよう! 10:00~15:00 みーとみーとクラフトのイス作りです! 参加費200円。イスは持ち帰りです! 当日は予約なしでも参加できます。定員10名までです。
11月17日(日)	焼き芋カフェ 15:00~19:00 この時期は焼きたての焼き芋がおいしいです! 10時以降は予約なしでも参加できます。定員10名までです。
11月23日(土)	どんぐりと竹の工作WS 13:00~16:00 大塚のどんぐりや竹の工作です! 工作の楽しさを体験してください! 定員10名までです。
11月24日(日)	建築学生と作るお菓子の家 15:00~19:00 建築部の建築学生とお菓子の家が作るお菓子の家です! 定員10名までです。

イベント情報



タウンニュース誌面



ポスター掲示

近隣施設との連携：地域を巻き込んだ活動につなげる

上星川小学校	10月	イベントのお知らせ時にプロジェクトに興味をもってもらい、概要説明。 PJとコラボしたまちづくり をテーマに総合学習の授業を検討中。
保土ヶ谷中央病院	10月	イベント時に声をかけていただき、概要を説明。勤務医から地域での 健康イベント 開催について相談を受けた。



運営会議

事業運営計画・収支計画

事業運営計画

事業の3つの柱

① 地域と学生のチャレンジャー・協働の機会
シエアキッチン事業

② 地域と学生のHubとしての交流の場
主催共催イベント事業

③ 地域と学生の出逢いと学びの場
コミュニティカフェ事業

Schedule 2027
10
【協働の事例】
協働の場は学生と地域の両者にとっての
価値ある場である

Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat	Sun
18	19	20	21	22	23	24
11	12	13	14	15	16	17
4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7
18	19	20	21	22	23	24
11	12	13	14	15	16	17
4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7

WEEKLY SCHEDULE

TIME	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	SATURDAY	SUNDAY
8:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
9:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
10:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
11:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
12:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
13:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
14:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
15:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
16:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
17:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
18:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
19:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
20:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
21:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア
22:00	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア	モニコシア

事業ごとの概要・目的

① シエアキッチン事業 (全体の約70%)
・理想のシエアキッチン稼働率は70%程度
・地域住民と学生とのチャレンジャーの機会
・チャレンジャーをきっかけに新たな出逢いに繋がりが、お客さんとして訪れた人が自分もチャレンジャーできるイメージが付きやすく、次に繋がることを想定

② 主催共催イベント事業 (全体の約15%)
・地域の方、お子さん、学生をつなぐこと、街を豊かにする地域連携HUB機能
・地域団体や学生団体と手を組んで共催イベントを盛り上げていきます
・1次コンテンツ後、実際に主催・共催イベントを複数開催→地域の方からの好評や今後の期待の声

③ コミュニティカフェ事業 (全体の約15%)
・敷居を低く、ドリンク代等の低価格で利用できる
・2週に1回のコミュニティカフェは運営メンバーが担当することで、このプロジェクトの趣旨等を必ず説明することができ、新たな出逢いや挑戦の機会を逃さない!

具体的な事業内容

① シエアキッチン事業
・弁当など、飲食店が少ないという声に応えたい、弁当やランチ等「座って食べられる場所」の機能。
・編み物教室、英会話教室、お茶教室などの「趣味を教える挑戦の場×新しいことを学べる場」の機能。
・地域団体や学生団体の「発表・公演などの挑戦の場」としての機能。

② 主催共催イベント事業
・1次コンテンツ後に既に実施を試みた「みーとみーとクラフト」のような「大人も子供も一緒に楽しめるイベント」の機能。
・「みーとみーと」のような「夜でも明かりのある安心な街」としての機能。
・小川食堂は地域の野菜等を使って「こども食堂」として活動予定

③ コミュニティカフェ事業
・普段交流が少ない地域住民と学生向けに「気軽に交流が話したり聞いたりできる場」コミュニティカフェの実施
・朝から動きのある街への第一歩として「モーニング」も実施。
・これからみーとみーとで新たな挑戦をしたい方も、まずはコミュニティカフェに来て、どんな楽しい活動ができるか一緒に考えていこうと思います。

収支計画 / Annually

	1期10月	2期10月	3期10月
売上高①			
売上A	¥146,000	¥183,200	¥246,200
売上B	¥20,000	¥20,000	¥20,000
売上C	¥6,400	¥6,400	¥6,400
売上D	¥35,000	¥25,000	¥10,000
売上E	¥15,600	¥85,800	¥163,800
内訳			
売上A	¥15,000	¥30,000	¥30,000
売上B	¥4,000	¥16,000	¥16,000
売上C	¥50,000		
売上D	¥15,000	¥15,000	¥50,000
売上E	¥30,000	¥30,000	¥30,000
販売手数料			
販売手数料			
雑収入			
雑収入			
地代家賃			
地代家賃			
水道光熱費			
水道光熱費			
通信費			
通信費			
修繕費			
修繕費			
消耗品費			
消耗品費			
保険料			
保険料			
宣伝広告費			
宣伝広告費			
企画費			
企画費			
衛生費			
衛生費			
仕入額			
仕入額			
人件費A			
人件費A			
人件費B			
人件費B			
合計②			
合計②			
利益①-②			
利益①-②			

経費細目 (説明不足部分のみ補足)

地代家賃：整備場所の家賃
・学習塾と按分して経費計上
・前震改修工費用と相殺にて家主と誓約済み

人件費A：無償ボランティア
・地域メンバーと学生で構成
・学生は「地域課題実習」の単位として取得可能にする

人件費B：有償ボランティア
・地域メンバーと学生で構成
・企画主や主力メンバーには時給を支払うことを予定

売上A：主催・共催イベントの収入
・月2回程度実施予定
・地域住民と学生が交流が目的
・老若男女が楽しめるコンテンツを実施する
・企画により参加費を徴収する

売上B：主催・共催コミュニティカフェの収入
・月2回/2週に1回実施予定
・新たな地域住民と学生を取り込むことが目的
・低価格のドリンクを用意して敷居を低く訪れやすいきっかけを作る

売上C：メンバー企画イベント・カフェの収入
・シエアキッチン利用以外の枠を活用
・各企画毎の収支からのマージンを収入とする
・みーとみーとの趣旨に沿った活動を認める

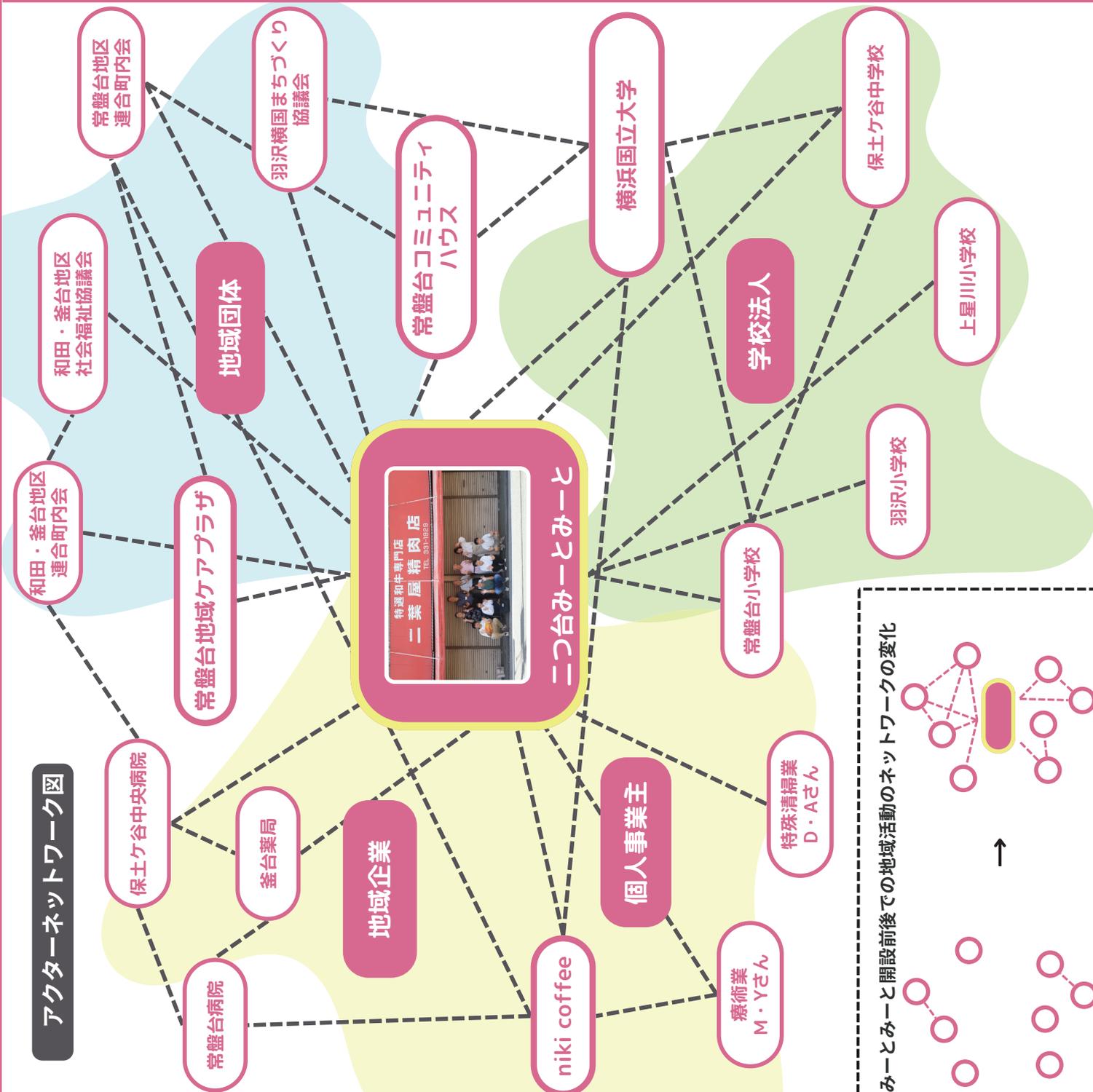
売上D：シエアキッチン賞出代
・シエアキッチン利用代のすべて
・挑戦したい地域住民や学生を応援
・個人利用ではなく住民に向けたものを認める

売上E：商品紹介兼販売棚の月極棚賃
・月額レンタルシヨーカー利用代のみすべて
・個人の作品や展示での利用を認める
・販売物のお会計のみ運営メンバーが代行可

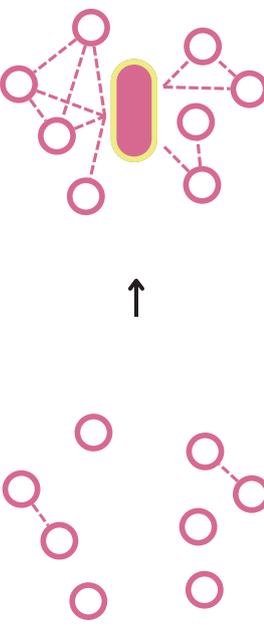
販売手数料：地元野菜の受託販売
・野菜等を中心とした受託販売手数料のすべて
・できる限り地元の農家と提携する
・販売物のお会計のみ運営メンバーが代行可

雑収入：シェアハウス家賃 (初年度のみ)
・建物改修範囲外である2階居住空間の家賃
・2年目は学習塾スペース増加の可能性あり
・居住者は運営メンバーの中から確約済

アクターネットワーク図



みーとみーと開設前後での地域活動のネットワークの変化



実際にシェアキッチンを使いたい人たちの声

■(和台町)40代女性
カレー屋さんをいつかやってみたくて、実際に料理教室に通い勉強中。とりあえず月1で小さく店を始められる場所を探していたのでちょうど良いと思っています。

■(常盤台)60代女性
お茶の講師を細々としています。以前から二つ台の住民の方や学生に向けてお茶で繋がる場所を作りたいと思っていました。茶話会やお茶の淹れ方の講座やお茶にまつわる色々なことを開催して集う人が増えて、この土地に住む人にとって愛着のある場所になってくれたらと思います。これから多くのことを発信して魅力ある場所を目指します。ひとりでは出来ないことをみんなと一緒に作りたいです。

■(釜台町)50代女性
息子(20代男性)が将来ボードゲームカフェを開くことに興味があります。不登校の子供にも昼間に居場所ができればいいなと思っていますが、収入になるかも不安です。時間貸しで、小さくチャレンジできるような場所があればいいなと考えていたので興味があります。

■(釜台町)70代女性
弁当屋さんを経営していました。月1くらいならお店を出しても良いかと思っています。

■羽沢近隣の方々
プライベートのメンバー。コミハ・ケアプラは無料で使える場所ですが、営利販売が難しいため、この場所を使って何か販売ができれば嬉しいです。

■常盤台中部に住んでいる方
お弁当屋さんをやってみたくて、親子で勉強中です。

その他、近くの養蜂園・チーズケーキ屋さんなどからお問い合わせを頂いております。



2次コンテスト事前質問集

【提案名グループ名】 二つ台みーとみーとPJ	
事前質問	回答欄
朝比奈委員	
<p>① 外部の声を積極的に生かそうとする姿勢にとっても共感します。活動の輪が広がると、一方で理念（大事にしていること）を共有していくことが大事になってくると思います。その点について考えていることがあれば教えてください。</p>	<p>理念に関しては、①チャレンジ・挑戦の機会の提供 ②地域のハブとして交流の場の提供 ③学びの場の提供という3つの理念を現在のメンバー間で、考えだし共有しています。今後、新たな加入メンバーが入った際や新たな仲間を募集する際には、この3つの軸を目指して動いている団体であるということをもまず最初に伝えるようにしていきたいと考えています。</p> <p>また、今後団体を組織していく上での規約をしっかりと作成して行きたいと考えています。</p> <p>さらに、地域住民に対してはみーとみーと主催のイベントやコミュニティカフェ等で当プロジェクトの趣旨を継続的に伝え続け、地域から応援してもらえるプロジェクトとなるような関係性を作っていきます。</p>
<p>② 学習塾と連携があるからこそできることはたとえばどんなことですか。</p>	<p>学習塾のメインターゲットは小学校高学年から中学生を想定しています。一般的な子ども食堂などは訪れる層が小学生など年齢の低い子どもである傾向が強いですが、学習塾と同じ建物であることで、みーとみーとで行われる地域活動が中学生に触れる機会が増えることが期待されます。</p> <p>また学習塾に通う生徒だけでなく保護者も含め、みーとみーとに関連するイベント等に関わることができ、より幅広い世代の住民に関わってもらえるという効果が期待できま</p>

	<p>す。同様に学習塾でアルバイトをする大学生も地域活動に関わるきっかけになることも期待されます。学習塾の講師と生徒という関係性が構築されているからこそ生徒も講師も活動に参加しやすくなることと考えられます。</p> <p>子どもたちは小さな頃から地域活動に関わることで、自分の生まれ育った街に愛着が沸き、ゆくゆくは街を主体的に盛り上げる一員となってくれることを期待しています。</p> <p>子どもが学校や部活動以外のコミュニティを持つことで子どもと古くからの地域住民とが交流するきっかけを作り、より一層安心できるまちづくりができます。</p>
<p>植松委員</p>	
<p>① 現地視察に伺った際、多くの学生さんが様々な形で関わっており、その多面性、継続性に疑義をさしはさむ余地はないように感じました。不安が残るとすれば、シェアキッチンにどの程度の需要があるのか、という点ですが見通しは如何でしょうか。</p>	<p>10月から11月にかけて地域に向けたイベントの開催とInstagramなどの広報を通じて、シェアキッチンを整備する旨の告知を行いました。</p> <p>その結果、興味があり具体的に話を聞いてみたいという問い合わせを15件いただいております。2次コンテスト提出資料の「その他資料」の2枚目の右側に(11月末までにいただいた)使ってみたい人の声を記載しております。</p> <p>また、11月に開始したクラウドファンディングの返礼品にてシェアキッチン利用権が既に4枠選ばれています。</p> <p>オープン前の段階で地域内の方のみで問い合わせがあるため、シェアキッチンの需要は見込めるのではないかと考えています。</p> <p>また世間一般的にもここ数年でシェアキッチンの需要の高まりにより開設数が増加しています。シェアキッチン専用の予約サイトプラットフォームに登録し、地域外からの利用者也受け付けたいと考えております。</p>

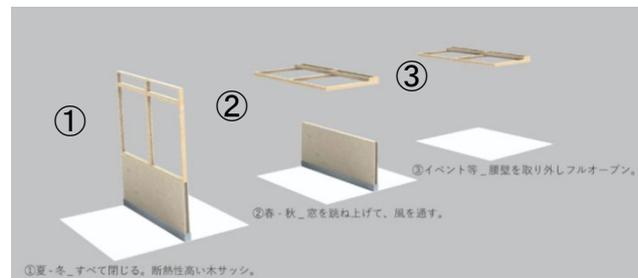
<p>② 近くにある大きな病院には患者と面会者が寛いで話を出来る場所が少ないが、こちらと連携するなどの計画はありますか。</p>	<p>隣接する保土ヶ谷中央病院さんとは、すでに連携をしており、12月6日に第一回健康カフェを開催しました。総合診療科の医師と実習中の医学部生、栄養士さんなどがみーとみーとで、地域住民とお茶しながら日頃の健康についてのお話をするというイベントを開催しました。</p> <p>1月10日に第二回を開催することが決定しており、これから定期的に保土ヶ谷中央病院と連携してイベントを開催していきたいと考えています。</p> <p>このように病院の医師との繋がりができているので、今後、寛いで話を出来る場所のニーズなどがあれば病院と連携していきたいと考えています。</p>
<p>川原委員</p>	
<p>質問なし</p>	
<p>後藤委員</p>	
<p>① 500万円を超える整備費用については、どのように賄う予定でしょうか。</p>	<p>500万円を超える整備費用については、クラウドファンディング・地域からの寄附と学習塾としての融資で捻出する予定となっています。</p> <p>クラウドファンディングは既に11月から12月にかけて実施し、132万円の寄付が集まりました。また、クラウドファンディングの周知を兼ねて地域への挨拶回りを行いました。その結果、直接の寄附や口座振込での寄附も募ることができました。クラウドファンディングは終了しましたが、引き続き寄付自体は募る予定です。</p>
<p>杉崎委員</p>	
<p>質問なし</p>	
<p>鳥海委員</p>	
<p>① 将来的な構想はイメージできました。まち普請事業における具体的な整備箇所は1次コンテストから変更なしとの認識でよろしいでしょうか？完</p>	<p>キッチンカウンターの配置が1次の時から変更されましたが、それを除けば整備箇所について大きな変更はありません。</p>

成予想図の外観パースをみると、土間に出入り口なしのフルオープンにみえます。具体的な整備についてもう少し知りたいです。

道に面した大きな開口をどう生かすかはこのプロジェクトの整備事業において重要な点です。私たちの計画では、日本の伝統的な建具である「蔀戸（しとみど）」を参照しながら、下図のような、跳ね上げ式の木サッシ建具を設ける予定です。

使い方や気候に合わせて閉めきった状態からフルオープンの状態まで、3段階のひらき方が可能になります。断熱性や安全性に十分注意して検討しております。

パースでは、まちゆく人々に対して本拠点を文字通りフルオープンに開放するようなイベント時等を想定して絵を描いております。コンテスト当日には模型等を用いてより詳しく説明できるかと思えます。



- ① 夏・冬_すべて閉じる。断熱性高い木サッシ。
- ② 春・秋_窓を跳ね上げて、風を通す。
- ③ イベント時等_腰壁を取り外しフルオープン。

肥後委員

① シェアキッチン利用ニーズがどのくらいあるかを具体的に把握していますか？

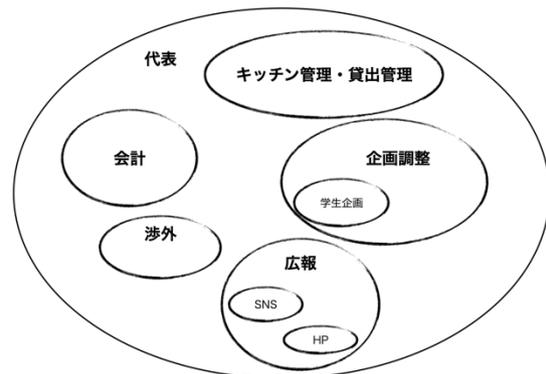
植松委員の質問①にて同内容の質問がありましたので、そちらの方にて回答いたしました。

② みーとみーと全体の運営は、代表中心に行うのでしょうか？

代表が全体を把握しつつ、現在の各メンバーで役割を分担し、それぞれ負担が大きくなりすぎないような組織体制で運営を行いたいと考えております。

ヒエラルキーの組織体制ではなく下図のようなホラクラシーの組織体制が二つ台みーとみーとには適しているのではないかとチームで考え組織図を作成しました。

二つ台みーとみーと 組織図



各ロール（役割） 定義

キッチン管理・貸出管理

- ・ 予約、現地説明、スケジュール管理

渉外

- ・ 地域連携（町内会等に企画の説明に行くなど）
- ・ 説明、要望を聞き取る、開拓系

広報

- ・ SNS、チラシ、広報状況の管理
- ・ HP、新聞、TV、取材
- ・ プレスリリース

会計

- ・ 収支管理、領収書、見積もり
- ・ 取引の記録、税務管理、現金、預金管理

企画調整

- ・ 各企画の統括、進捗管理

松村委員

質問なし